



自衛隊群馬地方協力本部

JAPAN SELF DEFENSE FORCE GUNMA PROVINCIAL COOPERATION OFFICE

「板倉まつり」で自衛隊をPR

1等海尉 谷本 明

自衛隊群馬地方協力本部太田出張所（所長 1等海尉 谷本 明）は8月3日、板倉町役場の駐車場で開催された「第40回板倉まつり」に募集・広報ブースを出展した。

板倉町で毎年この時期に開催されている「板倉まつり」は、様々な種類の出店のほかに花火の打ち上げなどもあり、厳しい暑さが続く中、多くの人で賑わっていた。

当日は、新町駐屯地の第12後方支援隊から支援を受けて小型トラック及び救急車による車両展示のほか、制服試着や南極の氷展示等を実施した。

ブース来場者からは「自衛隊で実際に使用されている車両の説明を聞くことができうれしいです。」「暑い中でも笑顔をやささないですね。」などの声が寄せられたほか、自衛隊の受験希望者も獲得する等、非常に大きな成果を挙げた。

太田所は「今後も地域に密着した各種イベントへの参加を通じて、自衛隊の存在と職業としての魅力を伝えることにより、募集基盤の醸成に努めていく」としている。



「自衛隊に学ぶ防災&救出大作戦」

2等陸曹 早坂 健治



自衛隊群馬地本協力本部前橋募集案内所（所長 2等陸尉 土屋 章）は令和6年8月4日（日）群馬県渋川青年会議所からの依頼により青少年育成事業に協力をした。

本イベントは、防災意識の向上及び自衛隊への理解向上のため行われ、渋川市の小学生約40名（4～6年生）と青年会議所メンバー約30名が参加をし、相馬原駐屯地内でのVR体験、資料館見学、起震車体験、防災講話、応急担架の作成方法、地図判読（座学）及び体験喫食を行い、防災について学ぶ時間となりその後、渋川市総合公園に移動して、学んだ知識を実践すべく地図判読を行いながら救助レースを実施した。

救助レースでは、安全管理体制を万全にして青年会議所メンバーと自衛官が同行したが、子供達の自主性及び協調性を養わせるため危険な行動以外極力助言もせず行った為、的確に目的地に向かうグループもあれば遠回りしながら目的地に向かうグループもあり、目的地到着までの時間に差はあったが、どのグループも学年に関係なく皆積極的に発言・行動し、力を合わせて行っていた。

参加者からは、「自衛隊に来たことがなかったのが参加してよかった。」「みんなで力を合わせてできて楽しかった。」「簡単に担架を作れてビックリした。勉強になった。」「夏休み一番の思い出になった。」「などの言葉があった。

体験終了後も新たな仲間との出会いに心躍らせ疲れも見せず元気に遊ぶ姿が見られた。

